

第5回大阪府教育振興基本計画審議会

日 時：令和4年4月15日（金）13：00～

会 場：プリムローズ大阪 3階 高砂

次 第

1 開 会

2 議 事

- ・ 現行計画の振り返り・課題抽出、基本方針（案）に関する意見交換

3 閉 会

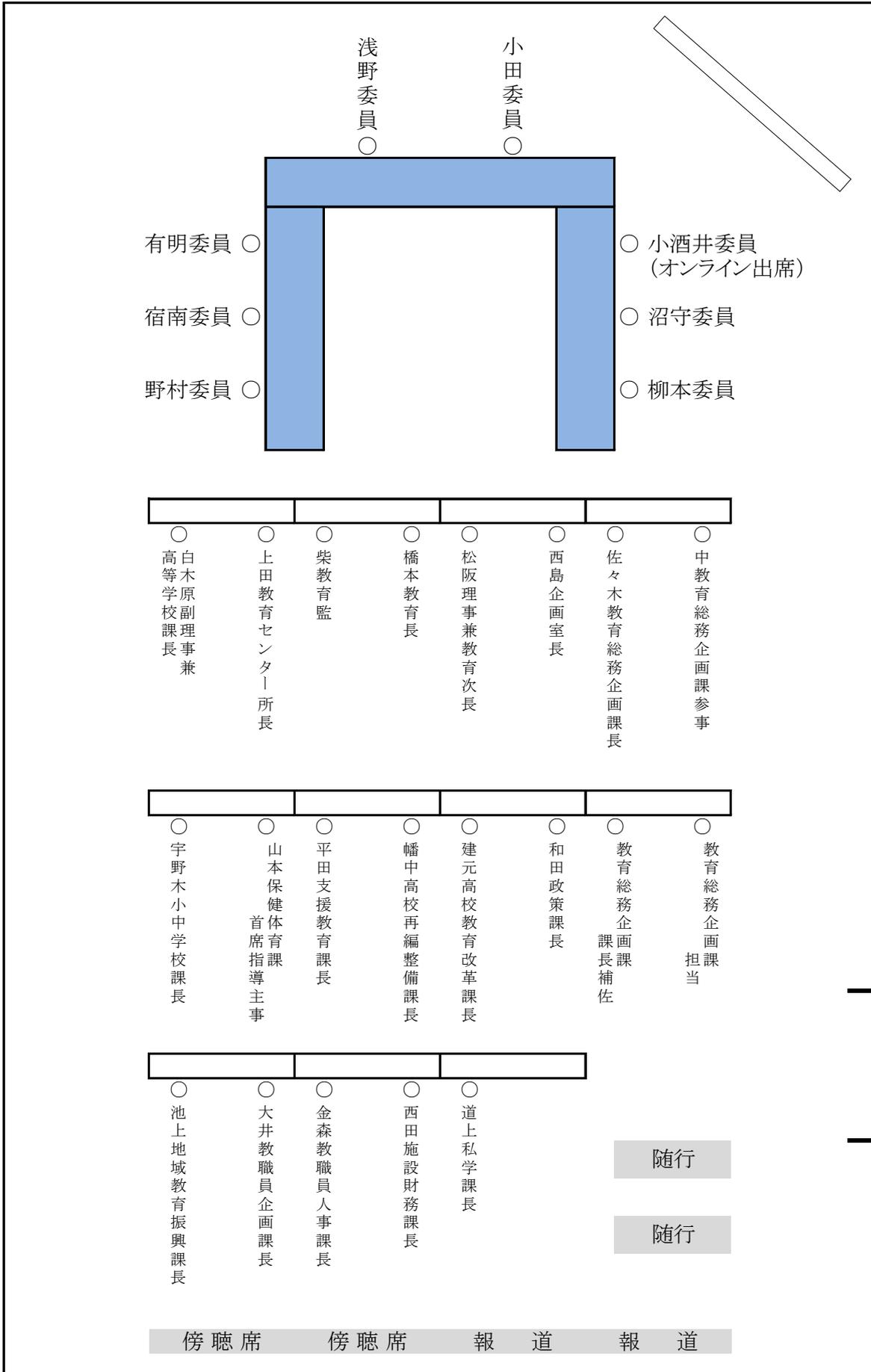
配付資料

- ・ 次第
- ・ 大阪府教育振興基本計画審議会委員名簿兼出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 第5回大阪府教育振興基本計画審議会資料

大阪府教育振興基本計画審議会委員名簿兼出席者名簿

氏名	職名	分野	出欠	備考
浅野 良一	兵庫教育大学大学院 特任教授	学識経験者/ 教育学	出席	会長
小田 浩伸	大阪大谷大学 教育学部長	学識経験者/ 教育学	出席	会長代理
小酒井 正和	玉川大学 教授	学識経験者/ ICT	出席 (オンライン)	
沼守 誠也	大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 総務本部長	学識経験者/ 教育行政、私学	出席	
柳本 朋子	大阪教育大学 教授	学識経験者/教育学	出席	
有明 三樹子	株式会社 りそな銀行 取締役	専門的知見を有する者/ 企業関係者	出席	
宿南 洋一	大阪府PTA協議会 会長	専門的知見を有する者/ 保護者	出席	
野村 卓也	一般社団法人 ナレッジキャピタル総合プロデューサー 株式会社 スーパーステーション 代表取締役社長 内閣府 イノベーション推進担当政策参与	専門的知見を有する者/ 企業関係者	出席	

配席図



現行計画の振り返り（1）

- <基本方針 1 市町村とともに小・中学校の教育力を充実します>
- <基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力向上をすすめます>

取組みのあらまし

- これからの社会で求められる確かな学力を身に付けることができるよう、学力向上のPDCAサイクルの推進や授業改善等への支援を行い、「基礎・基本」の確実な定着と「活用する力」の向上を図ってきた。
- また、社会に開かれた教育課程の実現や、専門人材との連携などによる「子どもの力をしっかり伸ばす学校力の向上」の取組みにより、「学びに向かう力」の涵養等を図ってきた。
- 英語教育の充実をはじめグローバル社会で活躍できる人材の育成や、生徒一人ひとりの希望・ニーズに合わせたセーフティネットの整備等、社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実を進めてきた。
- 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供し、公私の連携、切磋琢磨を図るため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施するとともに、効果検証による定期的な制度の見直し、改正を行ってきた。➡(15)で記載

【主な取組み】

スクール・エンパワーメント推進事業、すくすくウォッチ、中学生学びチャレンジテスト、ことばの力エンパワーメントスクール[ES](習熟度別授業、30分のモジュール授業)、グローバルリーダーズハイスクール[GLHS]、国際関係学科[LETS]、英語教育の充実(「広がる」英語教育推進P)、公私連携事業の実施、私立高校等の授業料無償化

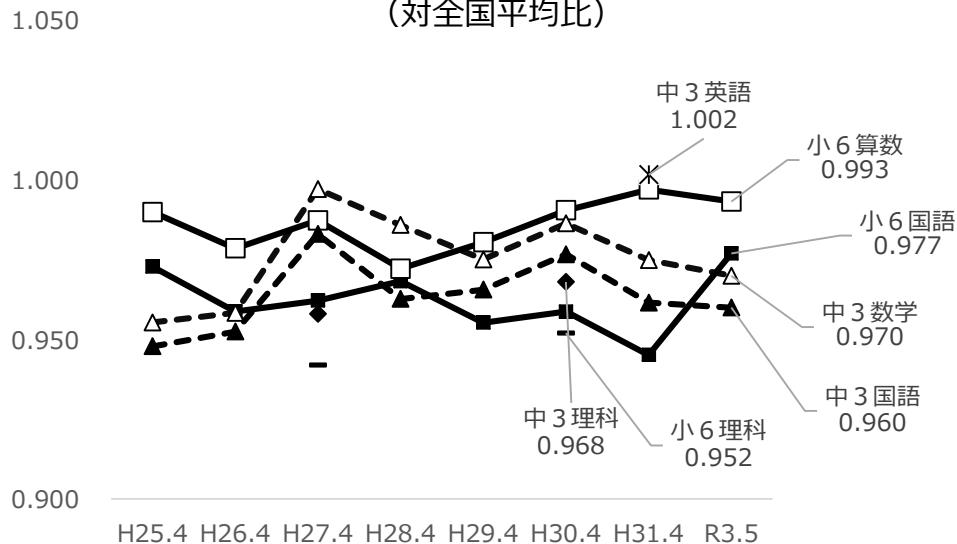
- 社会のルールを守り、違いを認め合い、相手を思いやる豊かな人間性をはぐくむ人権教育・道徳教育を推進するなど、学校教育全体を通して互いに高め合う人間関係づくりを推進してきた。
- 課題を抱える児童・生徒への支援をはじめ生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実してきた。

【主な取組み】

「こころの再生」府民運動の展開、道徳教育・人権教育の推進、大阪府中学校生徒会サミット、SSW・SCの配置

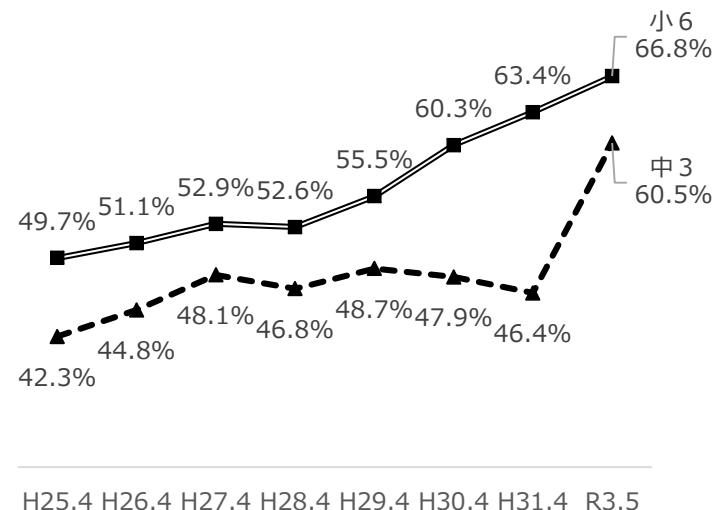
データの推移など

① 「全国学力・学習状況調査」における平均正答率 (対全国平均比)

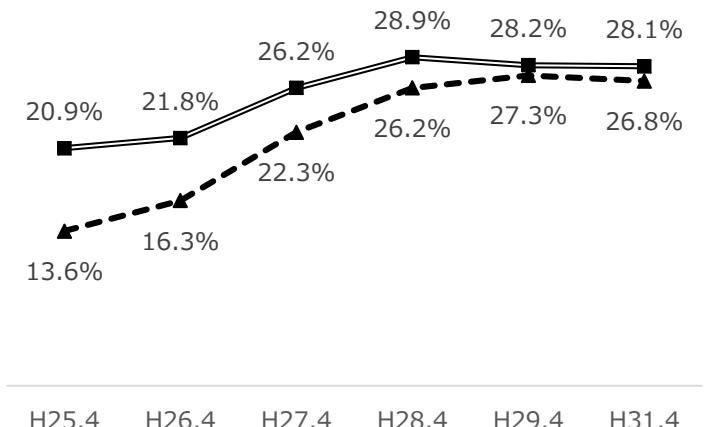


※H30までの国語と算数/数学の実績はAとBの平均値で記載。

② 「家で計画的に学習する」と回答した児童・生徒の割合

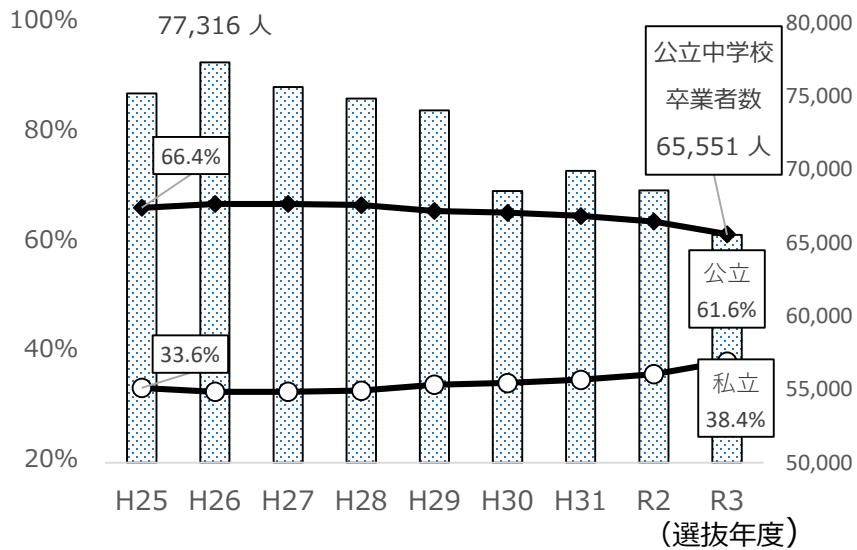


③ 「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と回答した学校の割合

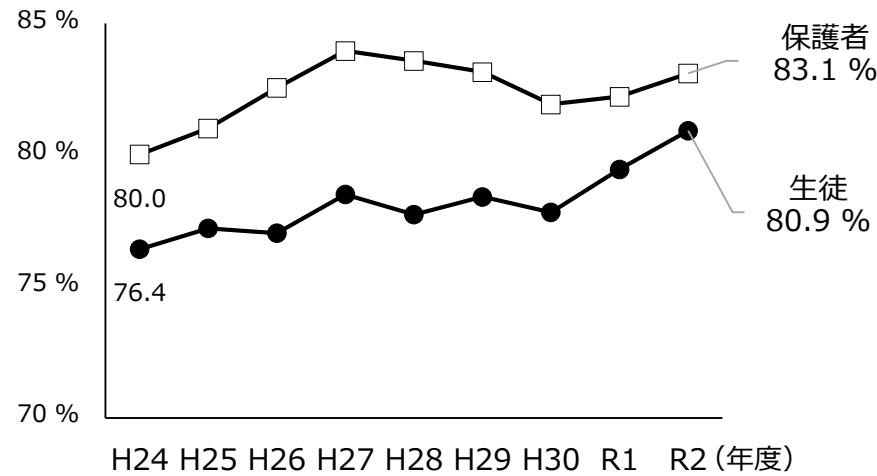


※H30,R3調査項目なし

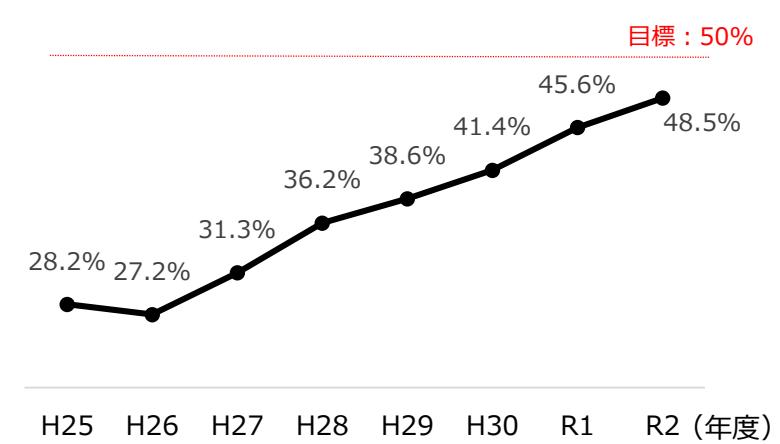
④公私受入割合の推移



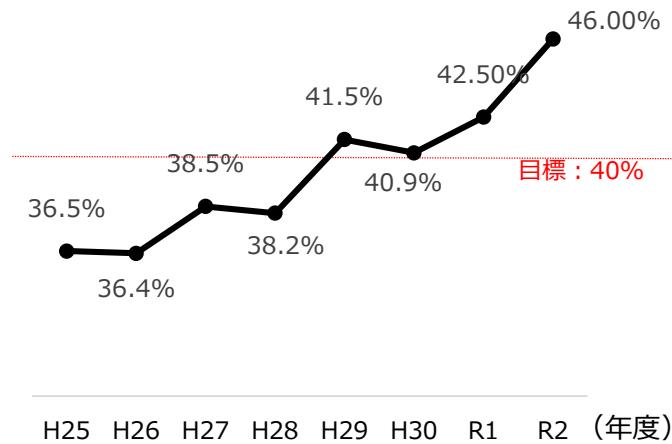
⑤府立高校における学校生活に関する肯定的評価割合の平均の推移



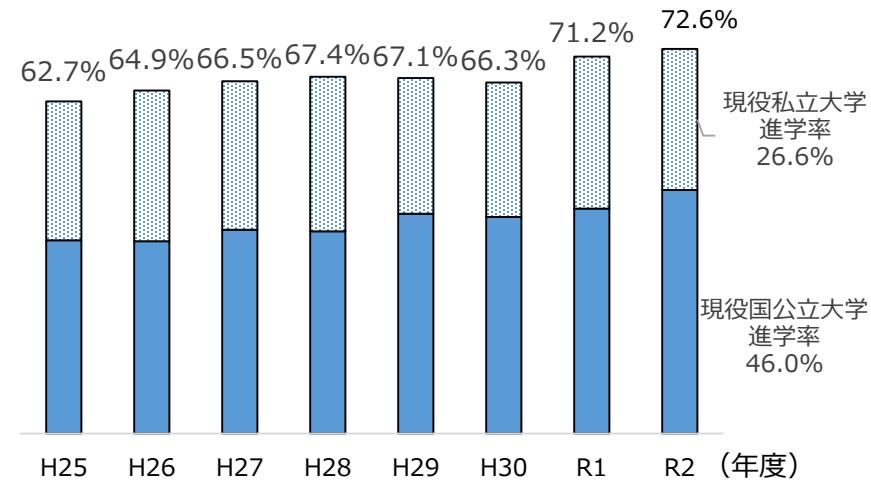
⑥府立高校3年生のうち英検準2級相当以上の生徒の割合



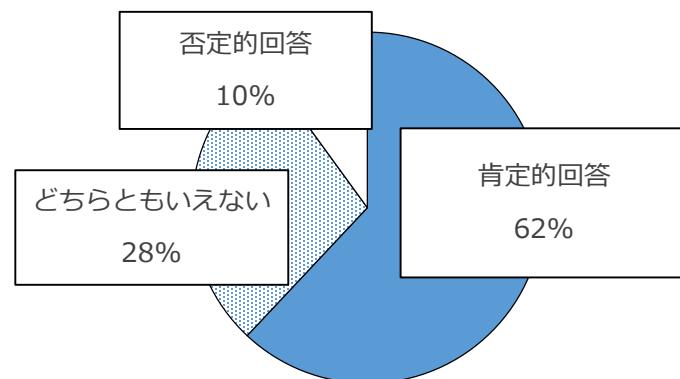
⑦グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) における現役での国公立大学進学率



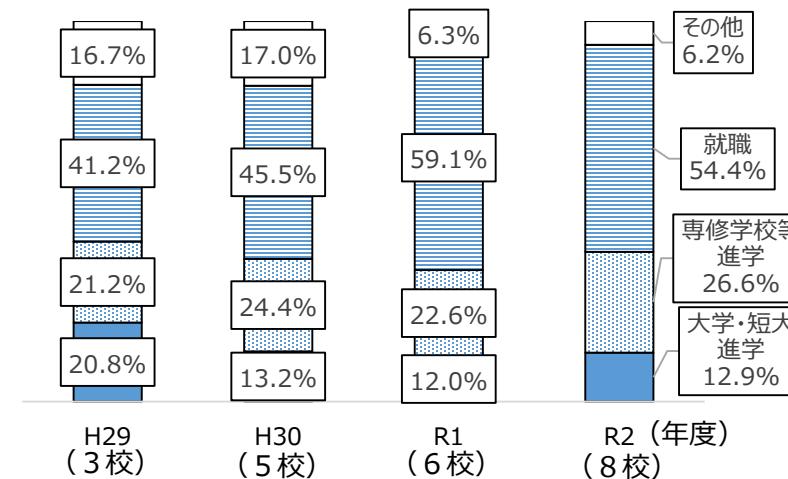
⑧GLHS卒業生の進学率



⑨エンパワメントスクール(ES)生徒アンケート「30分授業で勉強に対する苦手意識が薄れてきた」

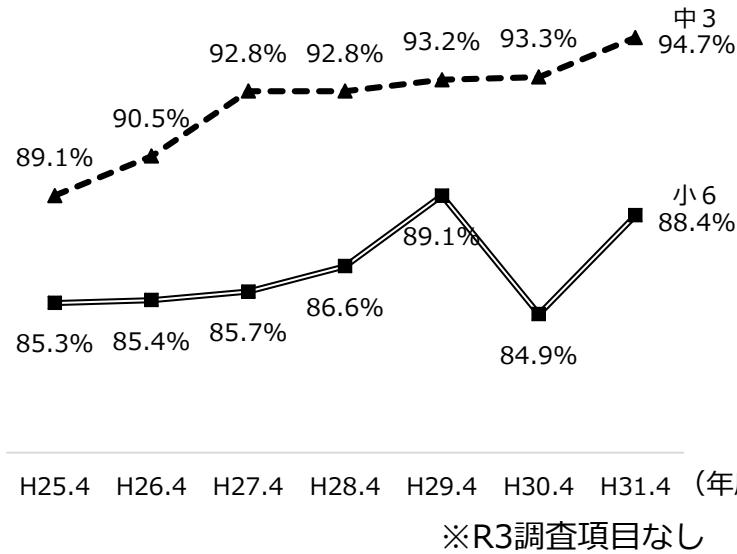


⑩ES卒業生の進路

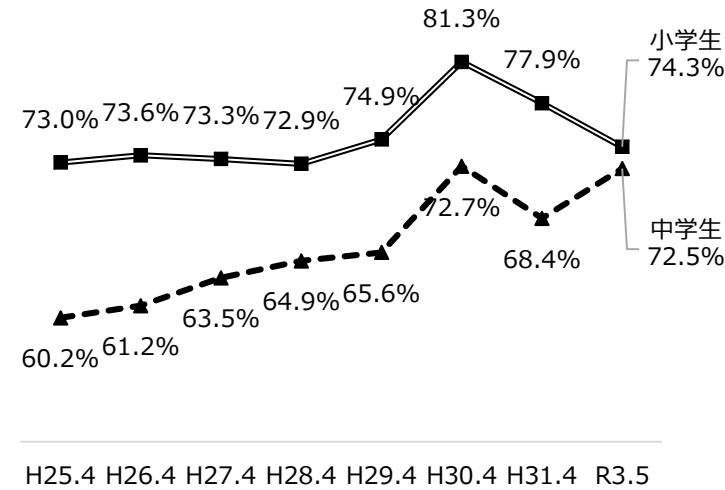


データの推移など

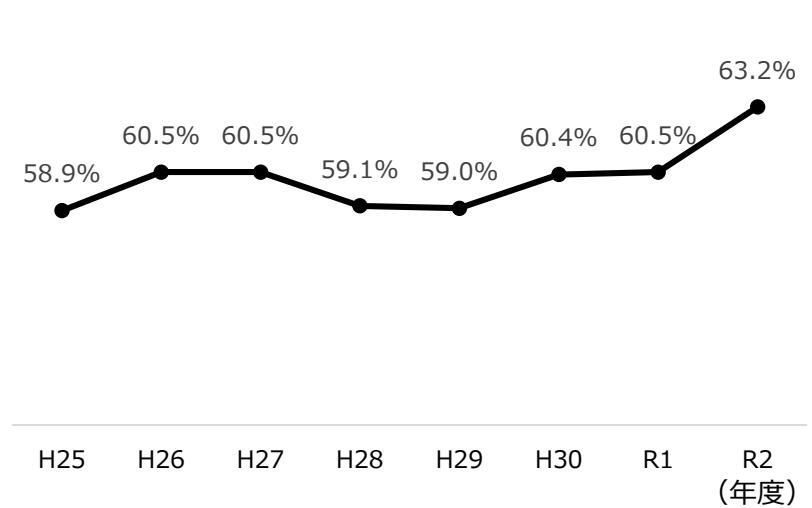
⑪「学校のきまりを守っている」児童生徒の割合



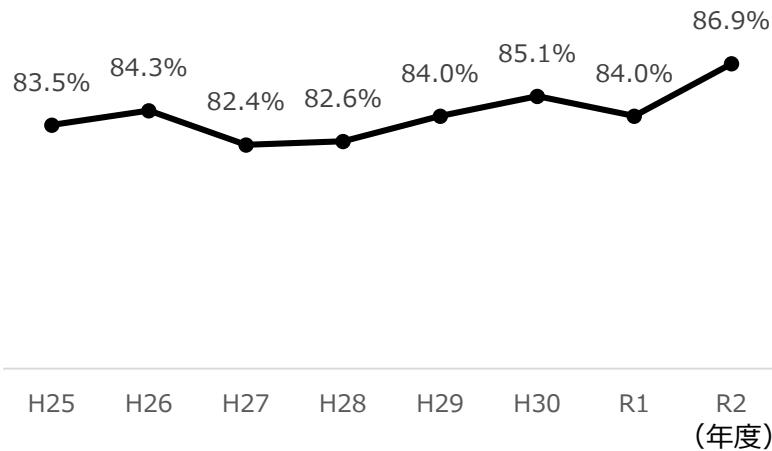
⑫自分には良いところがあると回答した児童生徒の割合



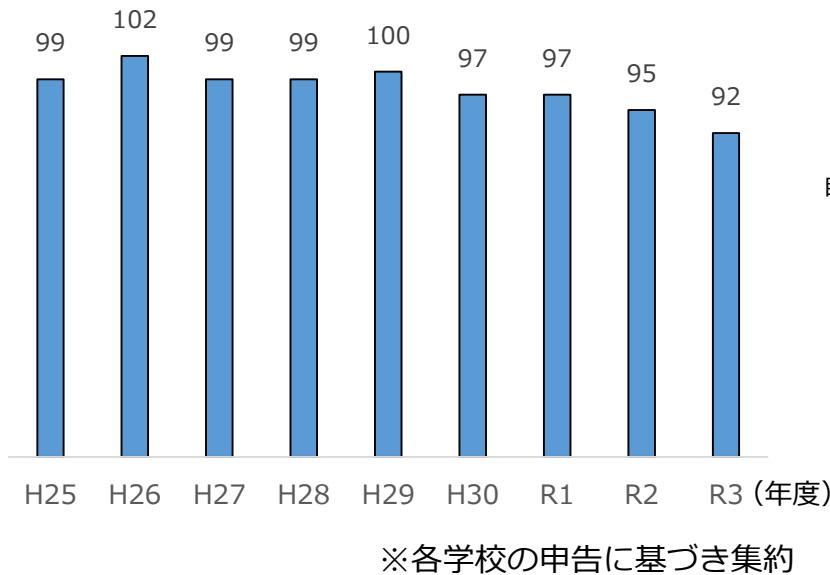
⑬「高校・高等部での学習を通して『自分を大切にする』気持ちが高まった」と回答した府立学校生の割合



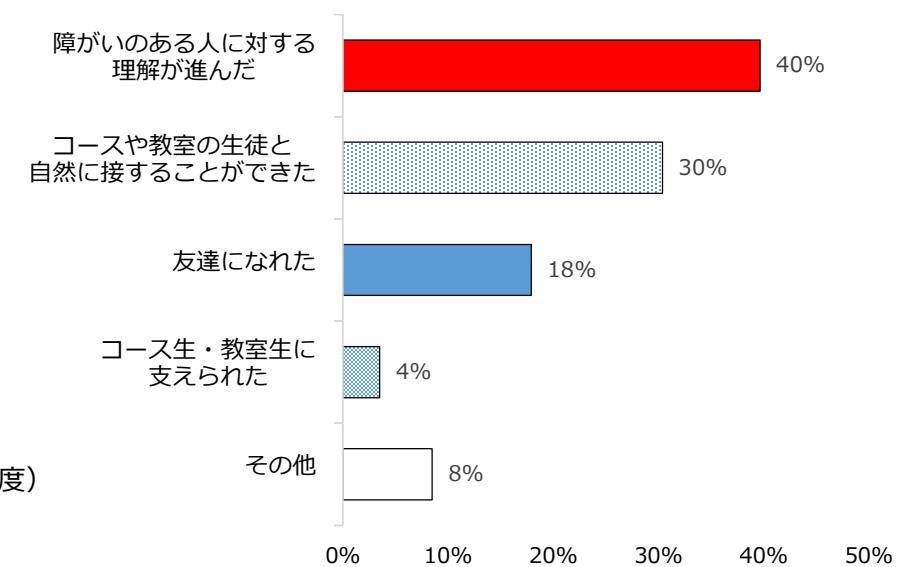
⑭「高校・高等部での学習を通して『人間関係』の大切さを学んだ」と回答した府立学校生の割合



⑮福祉・ボランティア活動を実施した府立高校の数

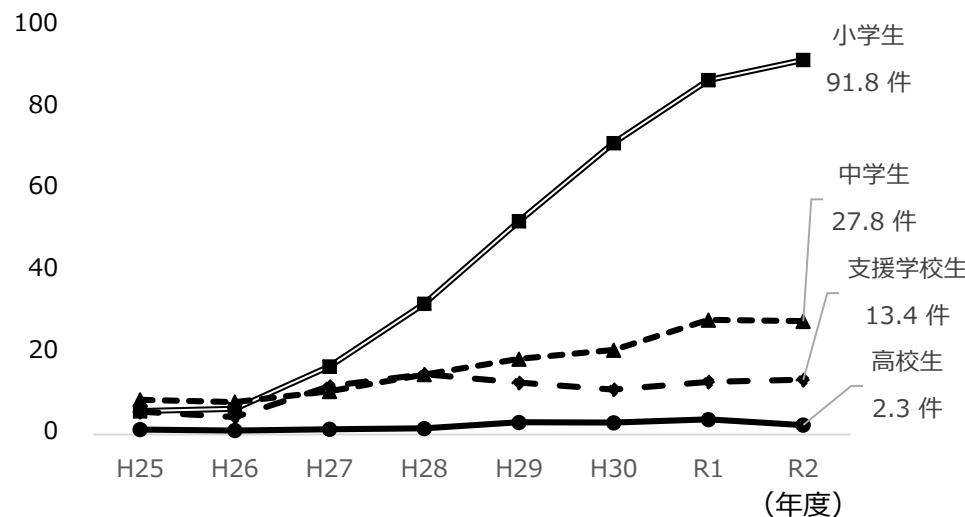


⑯自立支援コース・共生推進校生徒アンケート Q. ともに高校生活を送る中でよかったことは? ~同級生の回答(R2)

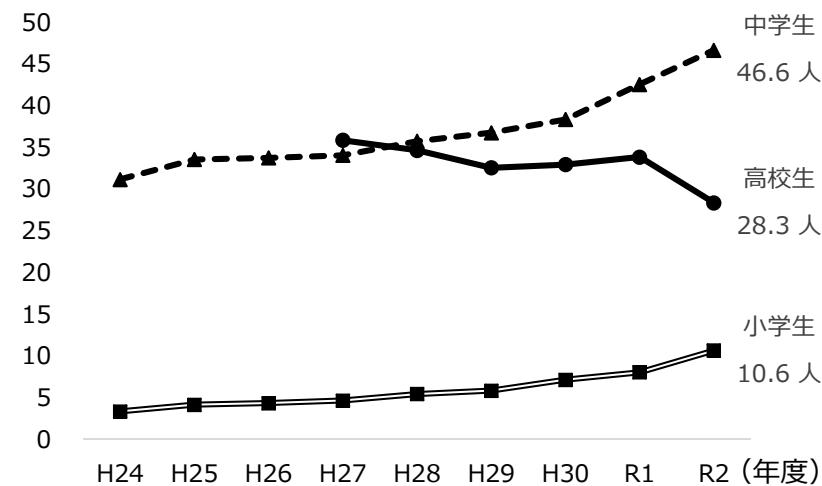


データの推移など

⑰いじめの認知件数の千人率
(府内公立小学生、中学生、高校生)



⑱不登校児童・生徒数の千人率
(府内公立小学生、中学生、高校生)



今後の課題

- 「基礎・基本」の確実な定着や、すべての学習の基盤となる「言語能力」や「学びに向かう力」の育成の充実等に努めているが、引き続き思考力・判断力・表現力を伸ばしていくことが重要。
- 学校生活に関する満足度や学習活動における成果、希望進路の実現など、生徒ニーズへの対応は一定できており、今後、ESやGLHSの取組み等の他校への拡大をはじめとして、各校の特色化・魅力化をさらに進めていくことが必要。

時代が大きく変化し、予測困難な将来となる中で、将来を生き抜く力を身に付けるべく、これまでの取組みを継続、発展することに加え、自ら考える力を身に付けるとともに、実践的で深い学びの実現をめざしていく。

- 豊かな人間性をはぐくむ様々な教育をとおして、社会規範を守る意識や他者理解・自己肯定感などが高まっている。
- 引き続き、社会とつながる人権教育や道徳教育等を進めるとともに、いじめ事案に対する対応やヤングケアラーの支援など、子どもたちが安心して学べるような環境の整備が重要。

社会全体の多様化を踏まえ、地域をはじめ実社会とのつながりを意識した取組みをこれまで以上に進め、社会規範や思いやりの醸成など豊かな人間性のはぐくみの実現をめざしていく。また、子どもの貧困や家庭の社会的孤立、障がいの有無に関わらない自立・社会参加等の課題を、様々な主体が協働して解決することをめざしていく。

現行計画の振り返り（5）

＜基本方針3 障がいのある子ども一人ひとりの自立を支援します＞

取組みのあらまし

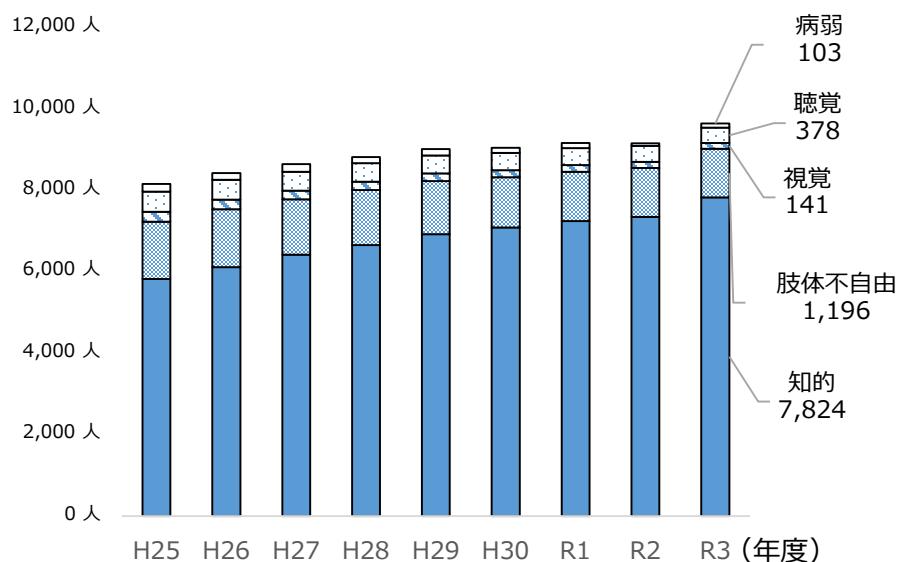
- 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進により、支援を必要とする幼児・児童生徒の増加や多様化に対応した教育環境の整備をすすめてきた。
- 幼・小・中・高の発達段階の連続性を大切にした一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実を図ってきた。
- 障がいのある子どもの自立と社会参加の促進に向け、関係機関と連携し、就労をはじめ支援体制の充実を図ってきた。

【主な取組み】

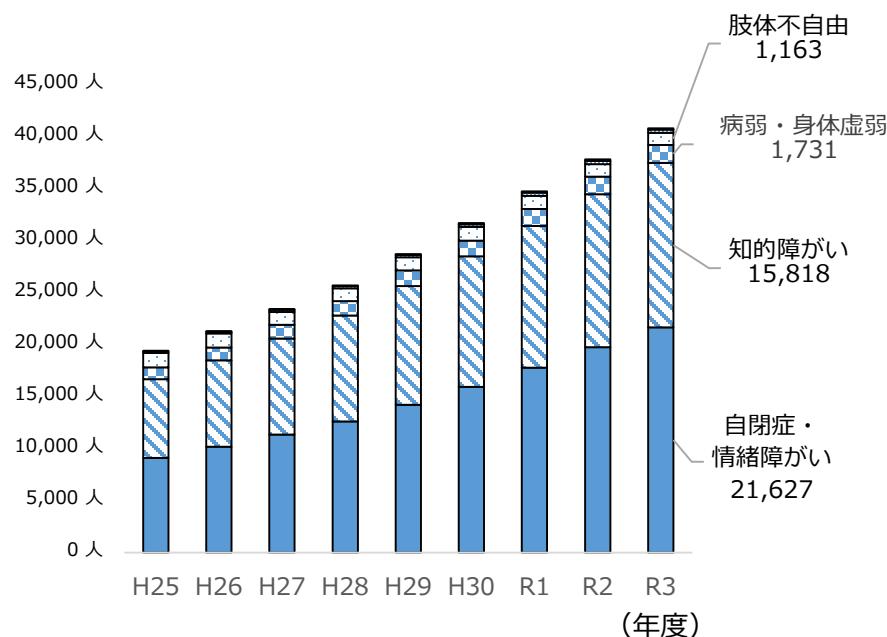
支援学級・通級指導教室の充実、医療的ケアを実施する体制整備の支援、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用の実施、知的障がいのある児童生徒等に関する基本方針の策定、府立支援学校におけるセンター的機能、知的障がい生徒自立支援コース(11校)、高等支援学校の共生推進教室(10校)

データの推移など

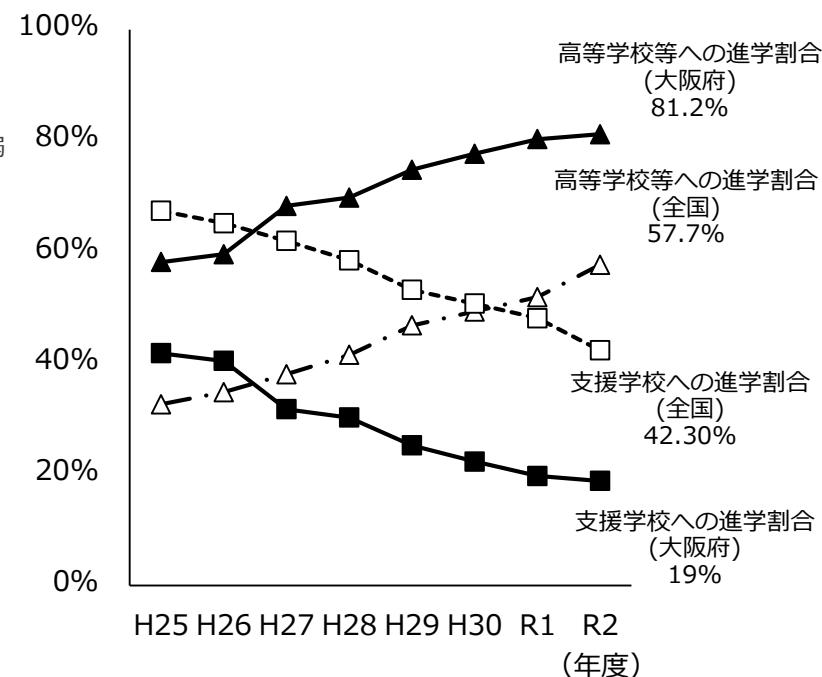
①府内支援学校の生徒数の推移



②支援学級の児童生徒数の推移



③中学校等支援学級に在籍する生徒の進学割合（大阪府・全国）の推移



現行計画の振り返り（6）

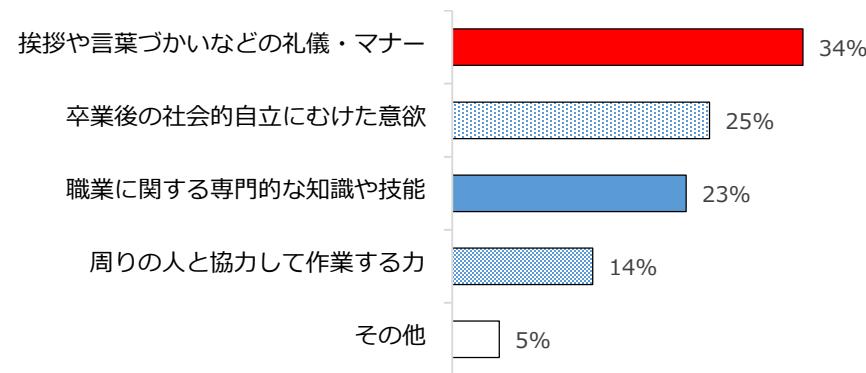
<基本方針3>

④支援学校の不足教室数

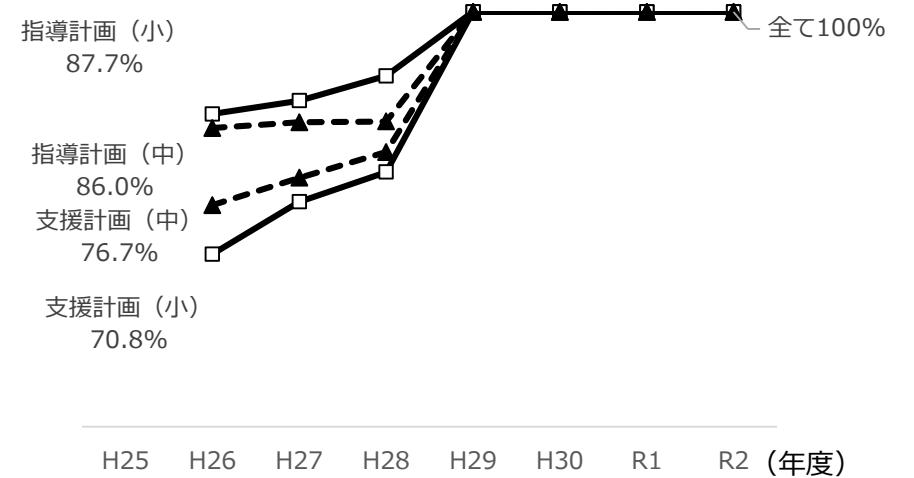
不足教室数	令和6年度までに 解消が計画されて いる教室数
528教室	90教室

※不足教室の85.2%（483室）は、
知的校で発生

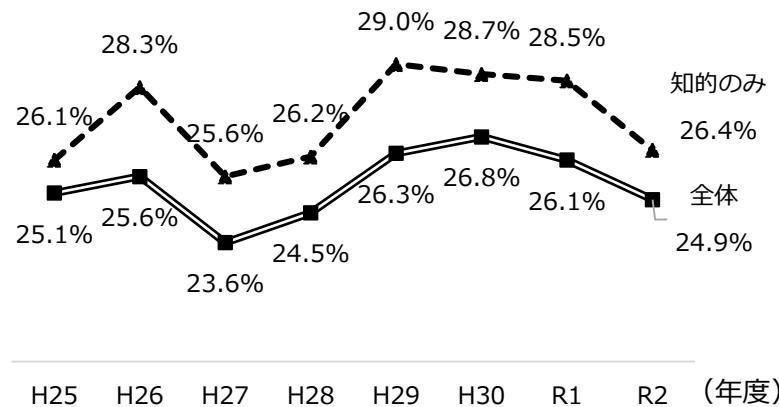
⑤自立支援コース・共生推進校生徒アンケート
Q.本校での授業で身についたと感じること
～障がいのある生徒の回答(R2)



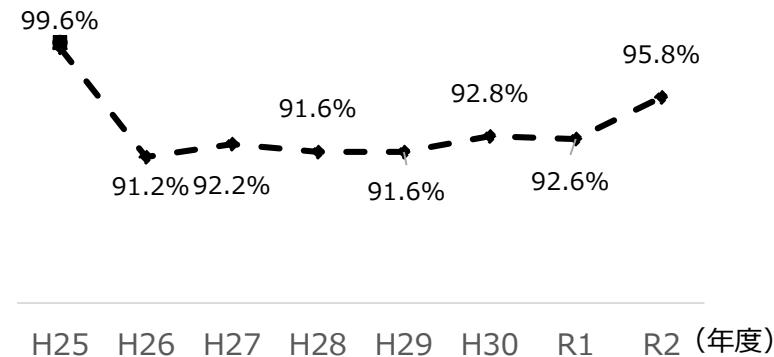
⑥公立小中学校で通級による指導を受けている児童・生徒の
「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成率



⑦障がい支援学校高等部卒業生の
就職率



⑧知的障がい支援学校高等部卒業生の
就職希望者の就職率



今後の課題

- 知的障がいのある児童生徒が年々増加傾向にあることに加え、国が新たに特別支援学校の設置基準を策定したことで、支援学校の教室数の不足が明らかになった。
- 中学校等の支援学級に在籍していた生徒の高校に進学する割合は年々増加しており、障がいのある生徒の教育環境の整備が必要。
- 障がいの有無に関わらず、支援の必要な生徒の自立・社会参加を実現することが重要。

障がいのある生徒の増加や、高校への進学を希望するなどのニーズの多様化を踏まえ、支援学校のみならず、高校も含めた生徒の受け入れ体制、教育環境の整備を進める。また、障がいの有無に関わらず自立・社会参加等の促進を、様々な主体が協働し、進めていくことをめざしていく。

現行計画の振り返り（7）

＜基本方針4 子どもたちの豊でたくましい人間性をはぐくみます＞

取組みのあらまし

- 小・中・高一貫したキャリア教育を推進するとともに、地域と協働した体験活動等により、自己実現と社会貢献への意欲を高め、粘り強くチャレンジする力をはぐくむ教育を充実してきた。
- また、就職を希望する興味ある職業等を具体的にイメージしながら、主体的に進路を考えることができる機会を提供してきた。
- 学校生活に不安や悩みを抱える生徒一人ひとりに状況を踏まえた支援を行い、生徒が安心して登校できる環境の確保に努めてきた。

【主な取組み】

SDGsジュニアフォーラムの開催、キャリア教育全体指導計画の作成促進、府立高校におけるキャリア教育・起業家教育、デュアル実習、「志（こころざし）学」、高大連携の実施

データの推移など

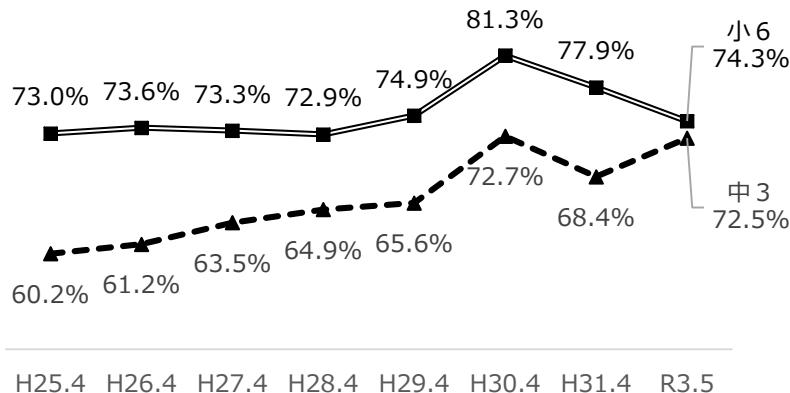
①小中学校と府立高校による連携

R3取組み例（件数：57件）
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小中学校へのお出前授業 ・近隣の小中学校との異文化理解交流 ・出身中学校での自校紹介 ・小中学校におけるキャリア教育への参画 ・近隣中学校による各種スポーツ大会や文化祭の主催 等

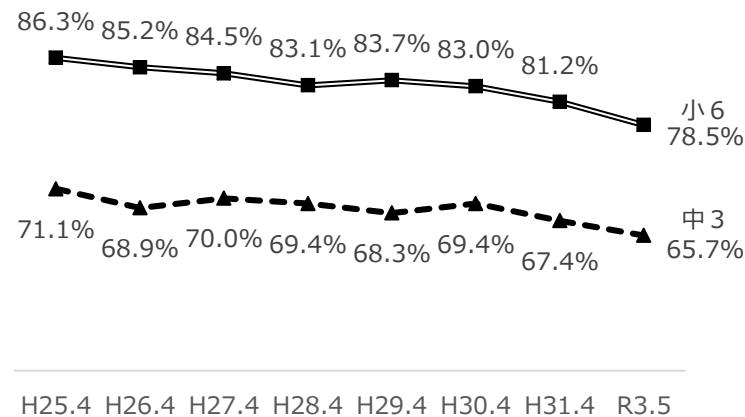
②府立高校と地域・企業・行政による連携

R3取組み例（件数：99件）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への各種講座・体験会の開催 ・地域の福祉施設等における乳幼児や高齢者との交流 ・地域イベントや地域NPO活動への参画 ・市町村との連携による政策課題の研究 ・企業との連携による新商品開発・販売促進 等

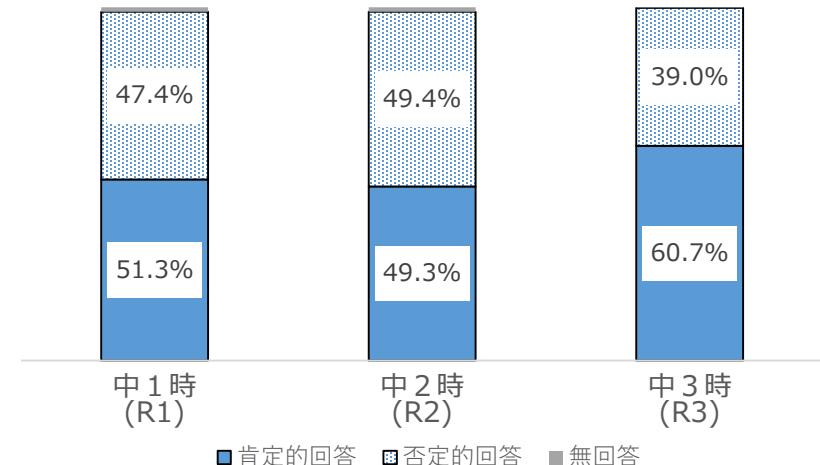
③自分には良いところがあると回答した児童・生徒の割合【再掲】



④「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童・生徒の割合



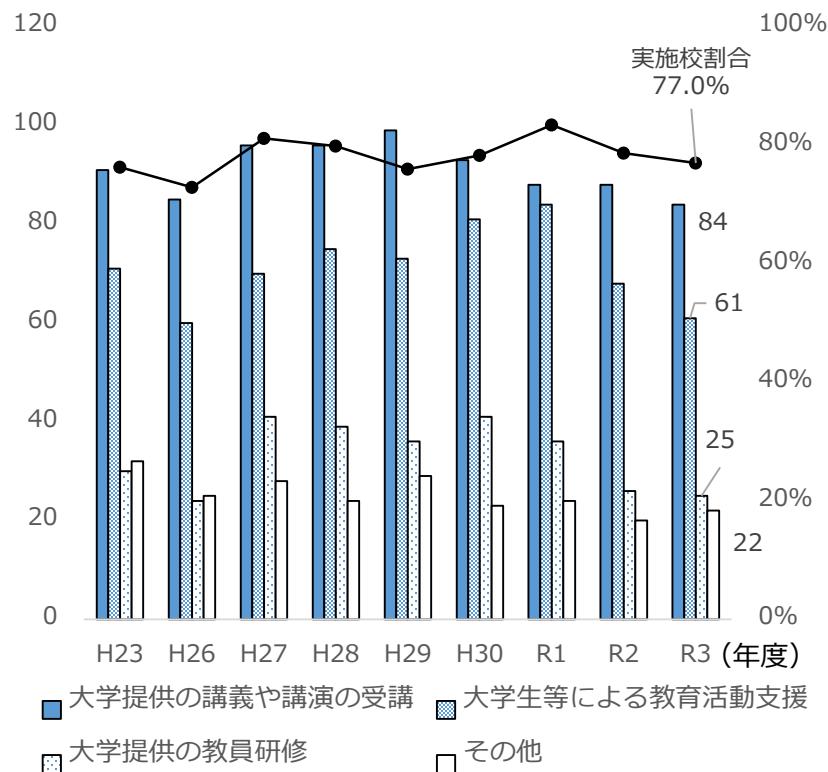
⑤「自ら課題を見つけて家で勉強をしている」子どもの割合（中1～3までの変化）



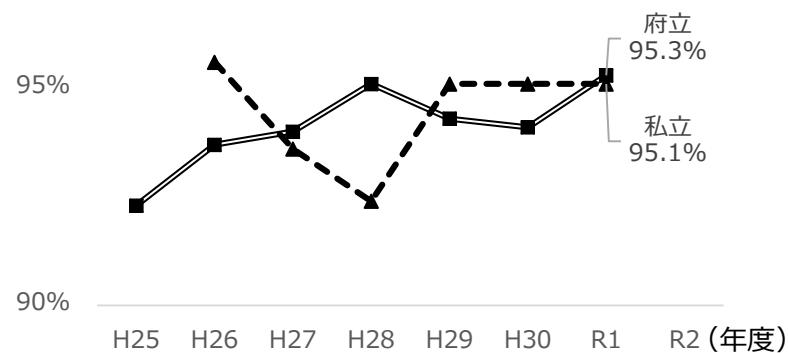
⑥府立高校と大学による連携

R3取組み例（件数：81件）

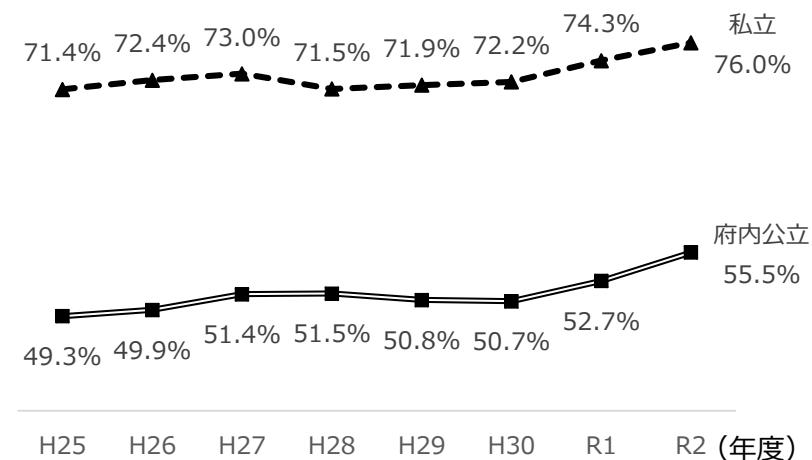
- ・大学教員による出前授業
- ・大学の公開授業の受講・単位認定
- ・大学コンソーシアムへの参画
- ・大学に対する研究フィールドの提供
- ・世界の大学との国際交流 等



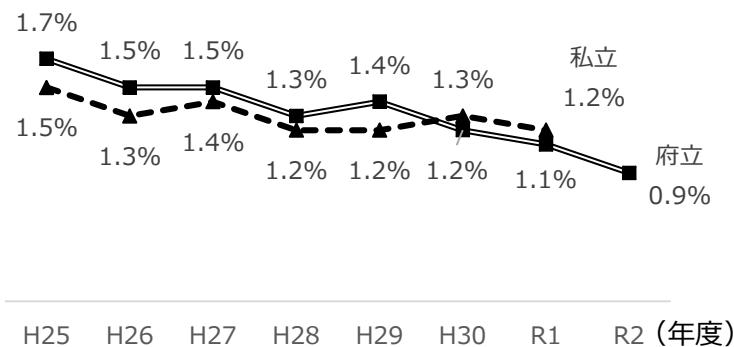
⑦府立・私立高校卒業生（就職希望者）の就職率



⑧公立・私立高校卒業生の大学進学率



⑨府立・私立高校全日課程の生徒の中退率



今後の課題

- 「自分には良いところがある」と回答する割合は計画策定時より上昇しているが、「将来の夢がある」や「自ら課題を見つけて家で勉強をしている」割合は下降傾向にあり、自主的・自律的に目標等に向かう力をはぐくむことが重要。
- 中退率が下降傾向にあることに加え、キャリア教育や就職支援の充実、大学・地域との協働等により、府立学校での就職希望者の就職率は上昇傾向にあり、引き続き、生徒が安心して学び、将来像を描ける環境を整えていくことが必要。

学校での一人ひとりに応じたキャリア教育等に加え、様々な主体との協働により、子どもたちが互いに協力しながら粘り強く挑戦できる実践的な教育環境のもとで、様々な体験等を通して、自主的・自律的な学びや自己肯定感等を高めることをめざしていく。

現行計画の振り返り（9）

<基本方針5 子どもたちの健やかな体をはぐくみます>

取組みのあらまし

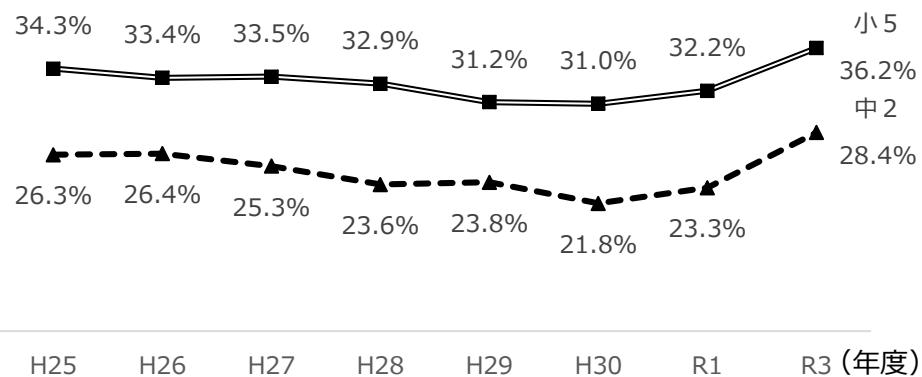
- PDCAサイクルに基づく学校における体育活動の活性化や、地域・家庭におけるスポーツ活動に親しむ機会の充実を図ってきた。
- 学校における食に関する指導や学校保健活動等を充実するとともに、地域や家庭と連携して子どもの生活習慣の定着を通じた健康づくりを推進してきた。

【主な取組み】

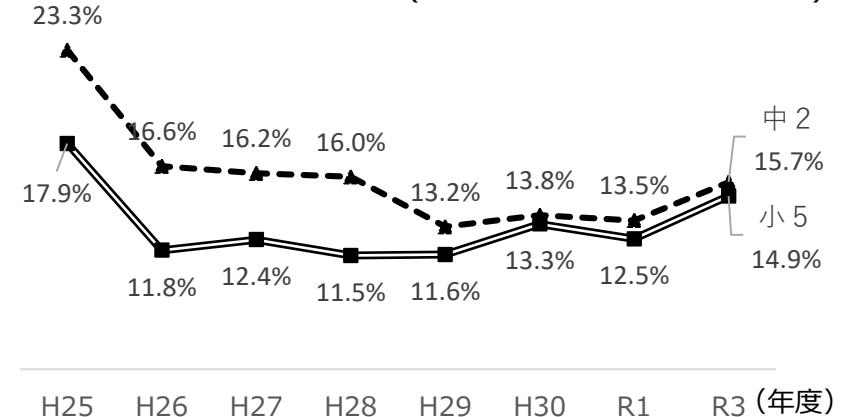
子ども元気アッププロジェクト、体育授業・運動部活動等の充実、府立高校のグラウンド等の開放、総合型地域スポーツクラブの設置支援及び活動促進、保護者が参画する学校保健委員会の設置促進、栄養教諭を中核とした「食に関する指導」

データの推移など

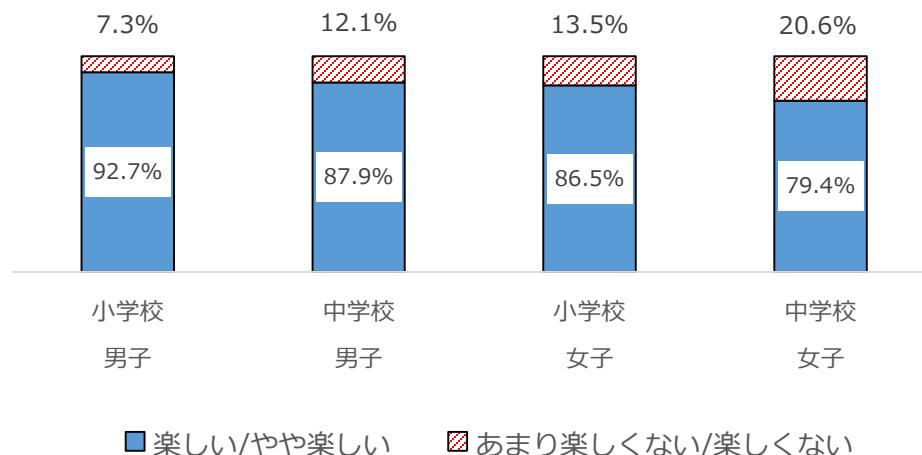
①体カテストの5段階総合評価で
下位評価の児童生徒の割合



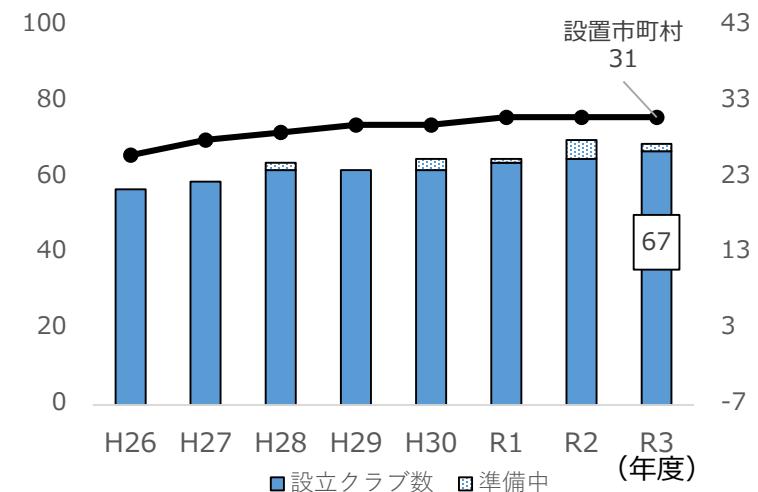
②1週間の総運動時間(60分未満の児童生徒の割合)



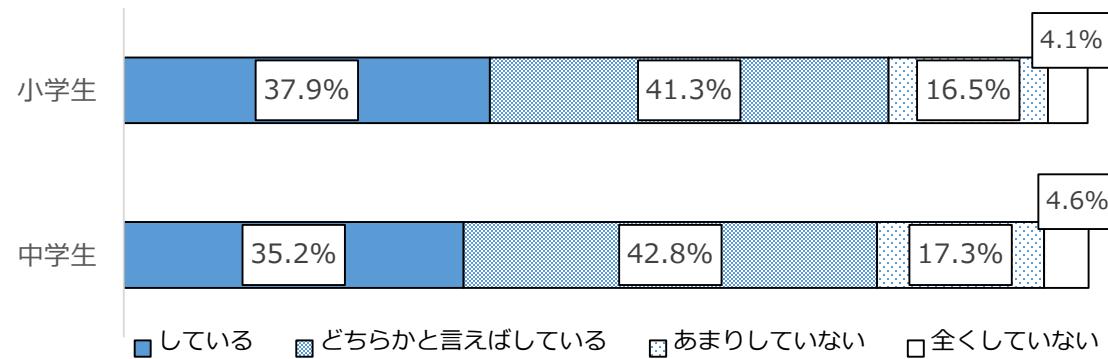
③Q 体育（保健体育）の授業は楽しいですか(R3：府)



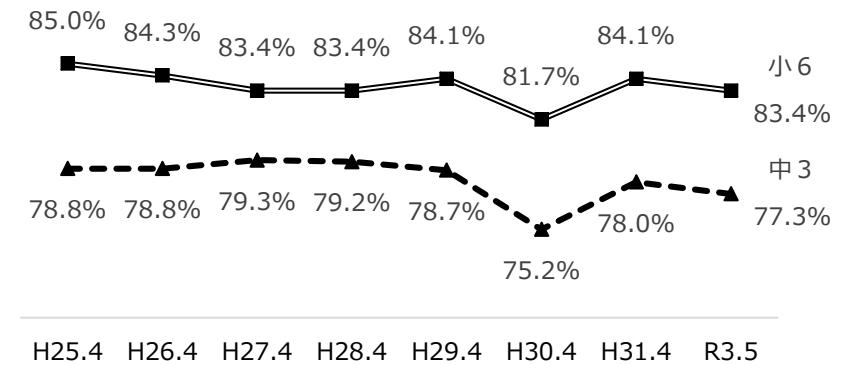
④府内の総合型地域スポーツクラブの数の推移



⑤毎日同じくらいの時間に寝ている
児童生徒の割合(R2)



⑥「毎日朝食をとる」児童・生徒の割合



今後の課題

- コロナ禍の影響もあり、令和元年度以降は運動時間の少ない児童生徒の割合が上昇傾向にあり、身体を動かす機会を多様に設定する等、児童生徒にとってのぞましい運動・スポーツ環境を充実させることが重要。
- 保護者と連携した学校保健活動や、食育の充実等は図られてきているが、健康の根幹となる、より良い生活習慣の獲得に向けた取組みの充実を図ることが必要。

運動・スポーツに接する機会を増やし、児童生徒にとってのぞましい運動・スポーツ環境の充実を図りながら、子どもの体力向上をめざしていく。また、健康教育をはじめとする学校保健活動の充実に引き続き取組み、将来にわたる健康づくりの基礎となる規則正しい生活習慣等を身に付けることをめざしていく。

現行計画の振り返り（11）

＜基本方針6 教員の力とやる気を高めます＞

取組みのあらまし

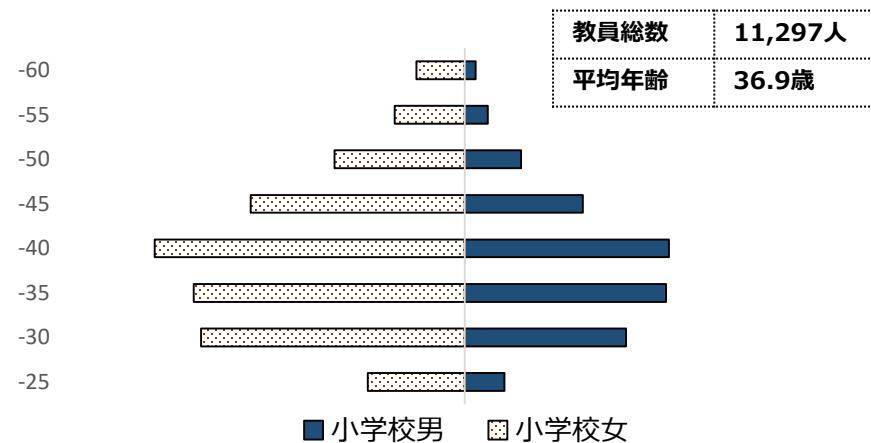
- 採用選考方法等の工夫・改善により熱意ある優秀な教員の確保を図るとともに、ミドルリーダー育成の取組みにより次世代の管理職の養成に努めてきた。
- また、がんばった教員の実績や発揮された能力が適正に評価される評価・育成システムの実施等により教員のやる気と能力の向上を図ってきた。

【主な取組み】

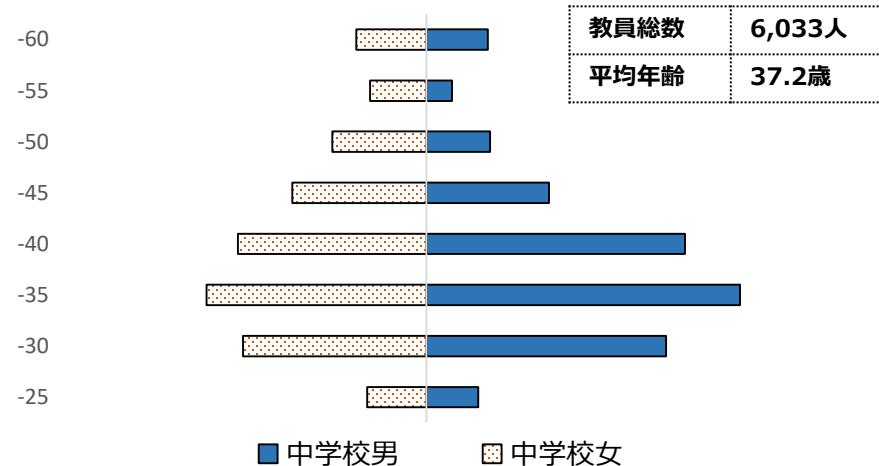
受験説明会や大学への個別訪問、経験者等への加点制度等、選考方法等工夫・改善、教育センターでの研修、学科や課程間と市町村間での人事異動・交流、教員の働き方改革、部活動指導員をはじめとする外部人材の活用

データの推移など

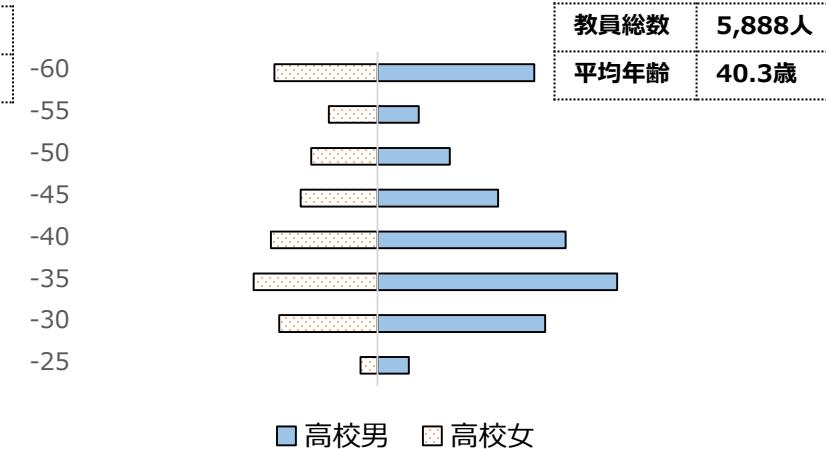
①公立小学校教諭の男女別年齢構成
(大阪市、堺市、豊能地区を除く) (R3)



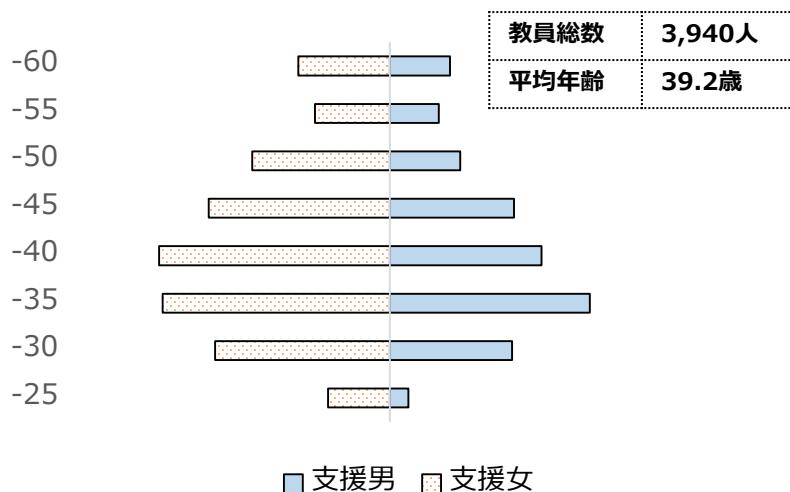
②公立中学校教諭の男女別年齢構成
(大阪市、堺市、豊能地区を除く) (R3)



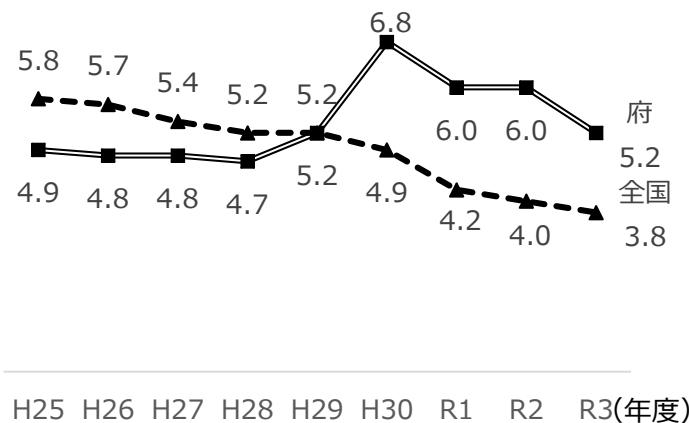
③府立高校教諭の男女別年齢構成 (R3)



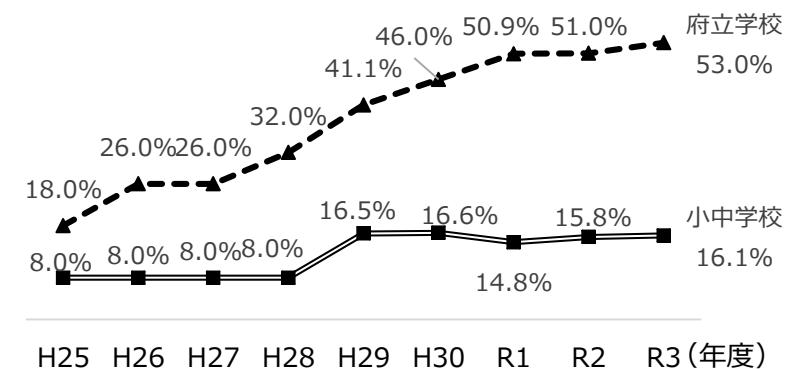
④府立支援学校教諭の男女別年齢構成 (R3)



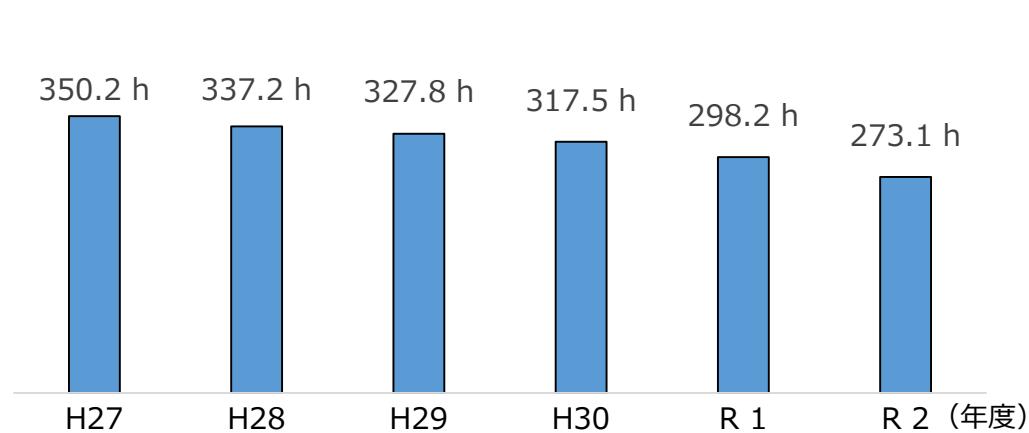
⑤教員の採用倍率



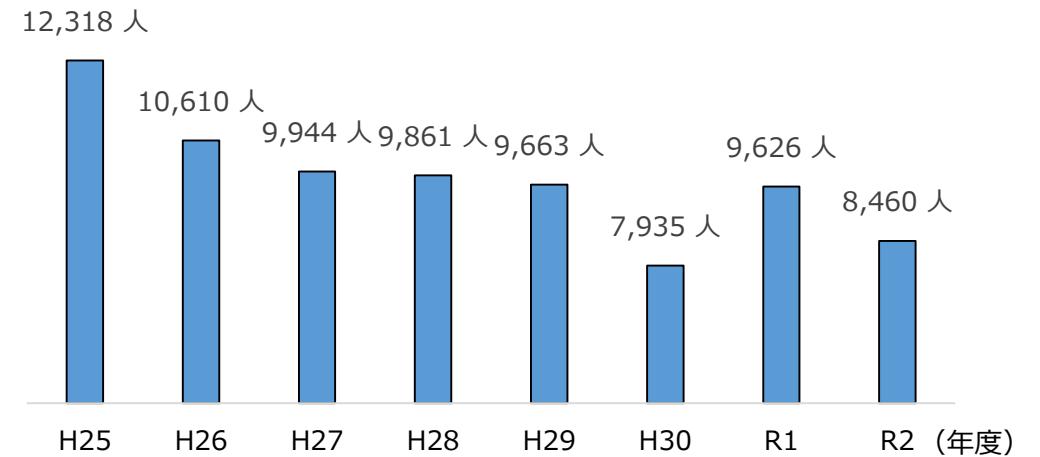
⑥経験の少ない教員の学科間及び課程間異動等の人数比率



⑦府立学校教員一人当たりの
年間時間外平均在校時間数



⑧府教育センター実施研修への総受講者数
※法定研修及び悉皆研修を除く



今後の課題

- 全国を超える採用倍率は維持できているが、団塊世代の大量退職もあり、経験の浅い教員、ミドルリーダー教員の資質・能力の向上に取り組むことが重要。
- 働き方改革の結果もあり教員の時間外在校時間は減少しているが、教職の魅力や教員の働き方についてより一層の広報等を図ることが必要。

➡ 教員採用に関する広報の充実等による優秀な教員の確保、経験の浅い教員や管理職候補の教員に対する各種機会の設定、ICT活用等による働き方改革や研修等を通じた教員の資質・能力の向上により、これまで以上に生徒・保護者のニーズに対応できる教員の育成や学校組織づくりをめざしていく。

現行計画の振り返り（13）

<基本方針7 学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます>
<基本方針9 地域の教育コミュニティづくりと家庭教育を支援します>

取組みのあらまし

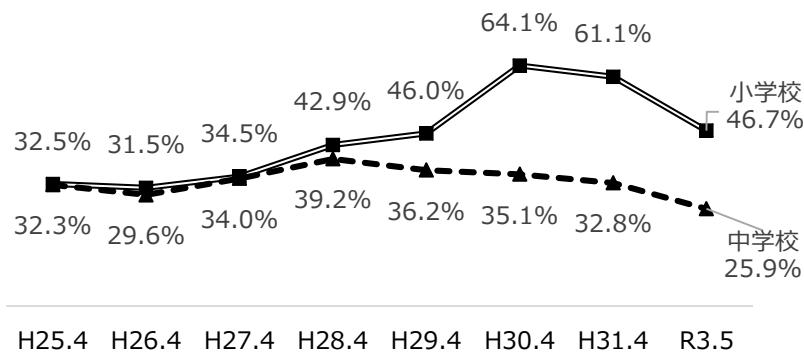
- 学校の教育活動への地域人材の参画を促し、地域のネットワークづくりを推進してきた。また、保護者・地域への情報発信を充実するとともに、保護者等のニーズを十分に反映した開かれた学校づくりを推進してきた。
- 子どもたちが様々な経験ができるよう、地域と連携した体験活動等の機会を提供してきた。

【主な取組み】

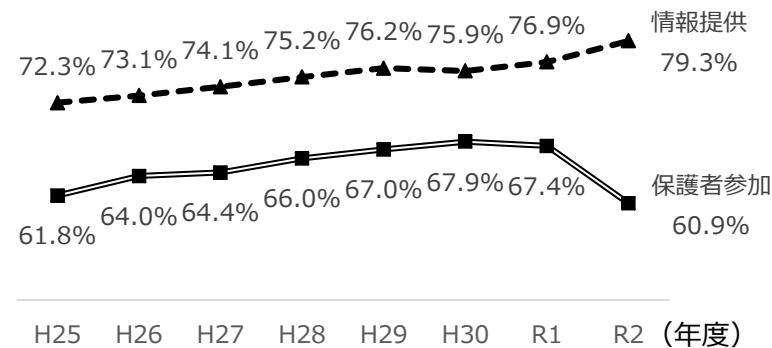
小中学校と高校・高校と大学の連携、地域・企業・行政との連携、学校運営協議会(生徒と保護者の意向を踏まえた学校教育自己評価)学校・家庭・地域の連携による教育コミュニティづくり(学校支援活動、おおさか元気広場、家庭教育支援)の推進、地域人材の育成

データの推移など

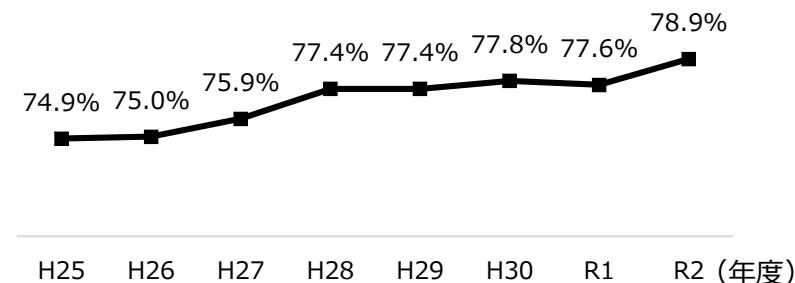
①保護者や地域の人々の学校における教育活動や様々な活動への参加状況に関する項目よく参加していると回答した学校の割合



②保護者向け学校教育自己診断における府立高校授業参観や学校行事等への保護者の参加及び学校の情報提供に関連する診断項目の肯定値



③保護者向け学校教育自己診断における府立学校教員の指導等に関する項目における肯定的意見の比率



今後の課題

- 児童生徒・保護者のニーズが多様化する中、大学や地域、企業等との協働により、児童生徒の興味や関心を高める取組みの機会を提供しているが、引き続き、協働する機関や人材を確保していくことが必要。
- 学校運営協議会を全府立学校で開催するとともに、学校評価情報の公表等により、情報提供に対する保護者等の評価は年々上昇しているが、学校の特色化・魅力化をさらに進め、中学校や大学・企業等により分かりやすい情報発信を行うことが重要。

児童生徒・保護者のニーズが多様化する中、児童生徒の様々な体験や学びを深めるべく、多様な機関・人材と協働しながら開かれた学校づくりから一歩踏み出した、地域とともにある学校づくりの推進をめざしていく。また、共働きの増加など社会状況の変化を踏まえながら、保護者・地域の協力を得ることができる学校運営をめざしていく。さらに、高校においては、魅力化・特色化のため、スクールミッションやスクールポリシーを策定し、各校の強みや特色、社会的役割等を発信する。

現行計画の振り返り（14）

＜基本方針8 安全で安心な学びの場をつくります＞

取組みのあらまし

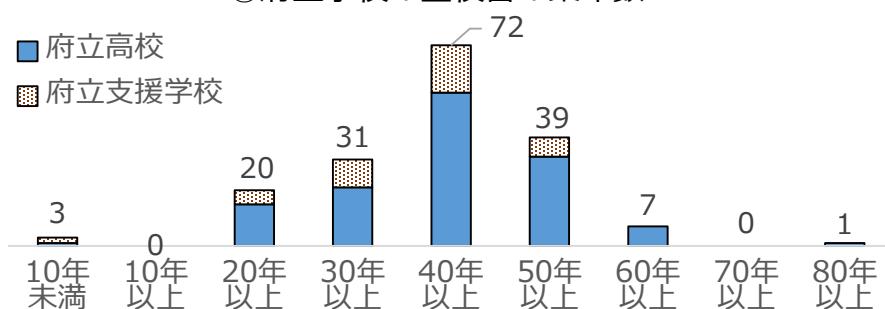
- 耐震改修、老朽化対策等、府立学校の計画的な施設整備を推進するとともに、ICT環境の充実により、府立学校の環境を整備してきた。
- 児童・生徒が災害時に迅速に対応できる力を養成するとともに、子どもの交通安全・防犯教育の推進等地域との連携による子どもの見守り活動等を推進してきた。

【主な取組み】

府立学校長寿命化計画の策定・空調やトイレ設備の改修、地域と連携した避難訓練の実施、学校・警察・保護者・地域が一体となった地域ぐるみでの安全体制の整備

データの推移など

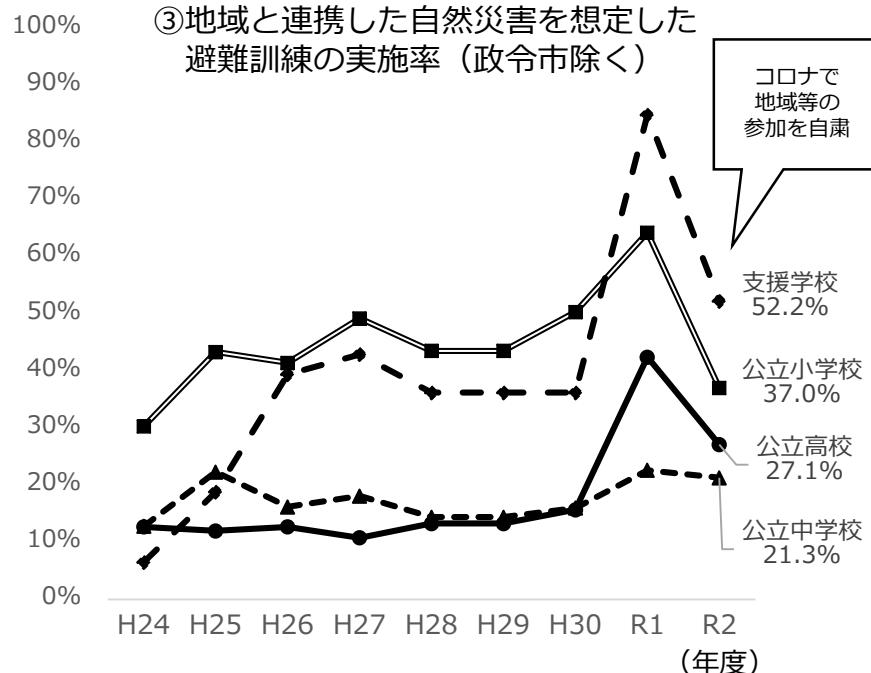
①府立学校の主校舎の築年数



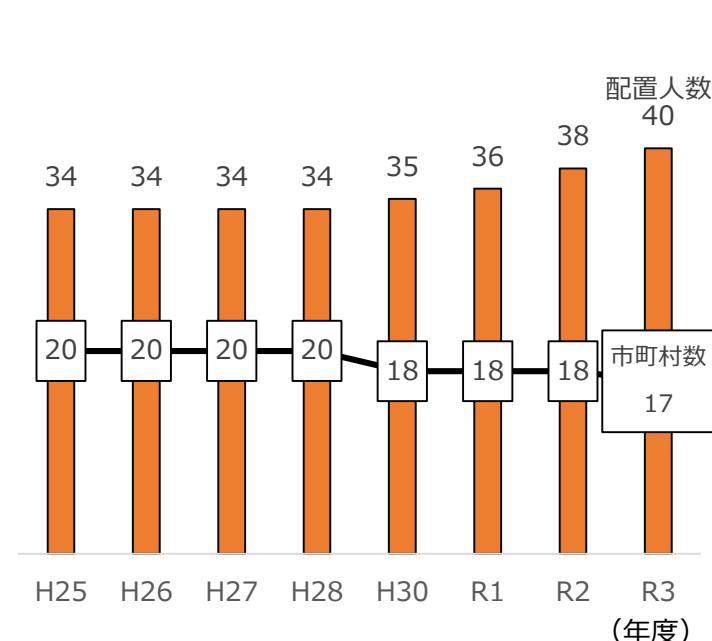
②府立学校体育館空調設置状況（R4.3.31現在）

	R1	R2	R3	R4 (予定)	R5 (予定)	計
高校	20	28	28	28	28	132
支援	—	—	13	13	12	38
計	20	28	41	41	40	170
設置率	11.8%	28.2%	52.4%	76.5%	100%	100%

③地域と連携した自然災害を想定した避難訓練の実施率（政令市除く）



④スクール・ガードリーダーの配置



今後の課題

- 空調設備更新等、教育環境の改善に着手に取り組んでいるが、府立学校の約70%が築年数40年以上となる中、継続的なファシリティマネジメントを進めていくことが必要。
- 地域と連携した避難訓練の実施件数やスクール・ガードリーダーの配置などは年々増加しているが、コロナ禍や人材の高齢化など、状況変化に対して取組み手法の変更なども行い、取組みを持続することが必要。

引き続き、学校施設が地域の防災拠点となることも踏まえた施設の改善や、地域との連携による安全・安心で快適な教育環境の構築をめざしていく。

現行計画の振り返り（15）

<基本方針10 私立学校の振興を図ります>

取組みのあらまし

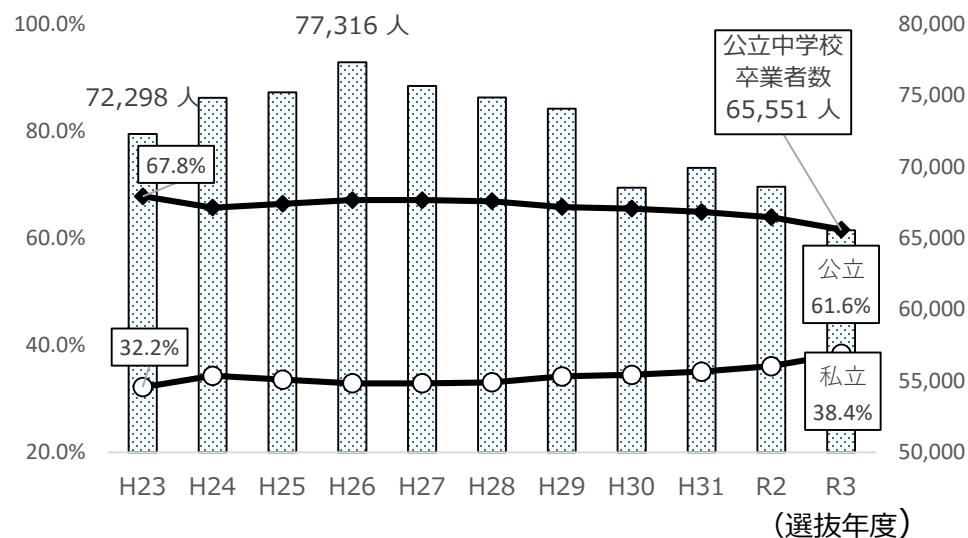
- 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供し、公私の連携、切磋琢磨を図るため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施するとともに、効果検証による定期的な制度の見直し、改正を行ってきた。【再掲】
- 私立学校が建学の精神に基づき、社会の変化や生徒・保護者ニーズに対応した特色・魅力ある教育をおこなえるよう支援を行ってきた。

【主な取組み】

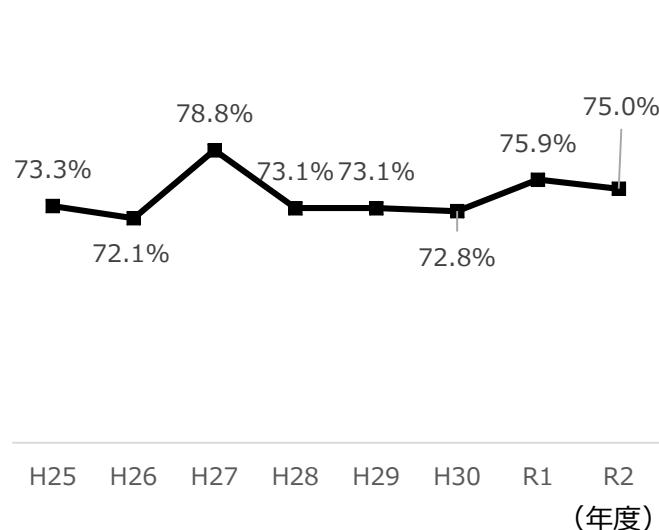
私立学校に対する経常費補助、私立幼稚園預かり保育事業補助金、私立高校等の授業料無償化、私立専門学校授業料等減免費補助金、公私連携事業の実施

データの推移など

①公私受入割合の推移【再掲】



②私立高校に対する生徒・保護者の満足度の推移



③公私連携事業の実施

R3取組み例（件数：86件）

- ・学校経営推進事業（公⇒私）
- ・府教育センター実施研修への参加（公⇒私）
- ・相互授業見学（公⇔私）
- ・キャリア教育推進のための研究会の設置（私⇒公）
- ・専門学校の府立高校生向け授業の実施（私⇒公）

今後の課題

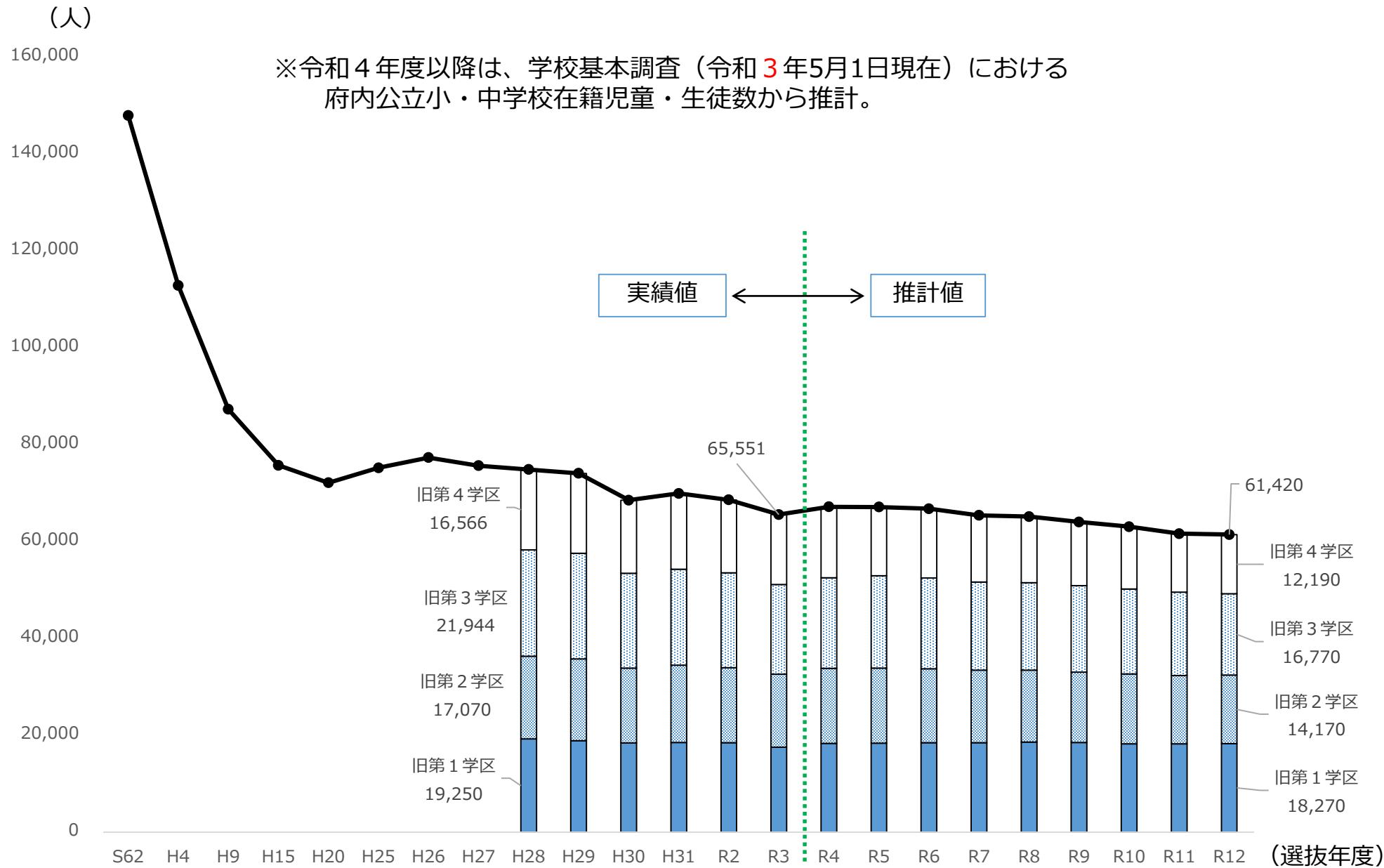
- 私立高校生等への授業料無償化制度の実施により、制度創設前と比べ私立高校に進学する割合が増加するなど、家庭の経済的事情にかかわらず自由な学校選択に寄与。
- 児童生徒に多様で个性的かつ特色ある学習機会の提供と幅広い教育内容の選択が行えるよう、私立高校生等への授業料無償化制度や私立学校園等への経常費補助金等、私立幼・小・中・高・専修各種学校への支援が必要。

引き続き、家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施していくとともに、私立学校が特色・魅力ある教育をおこなえるよう支援を行っていく。

参考 教育を取り巻く状況の変化① ～学生の状況

府内公立中学校卒業生数の推移と将来推計

大阪府教育庁調べ

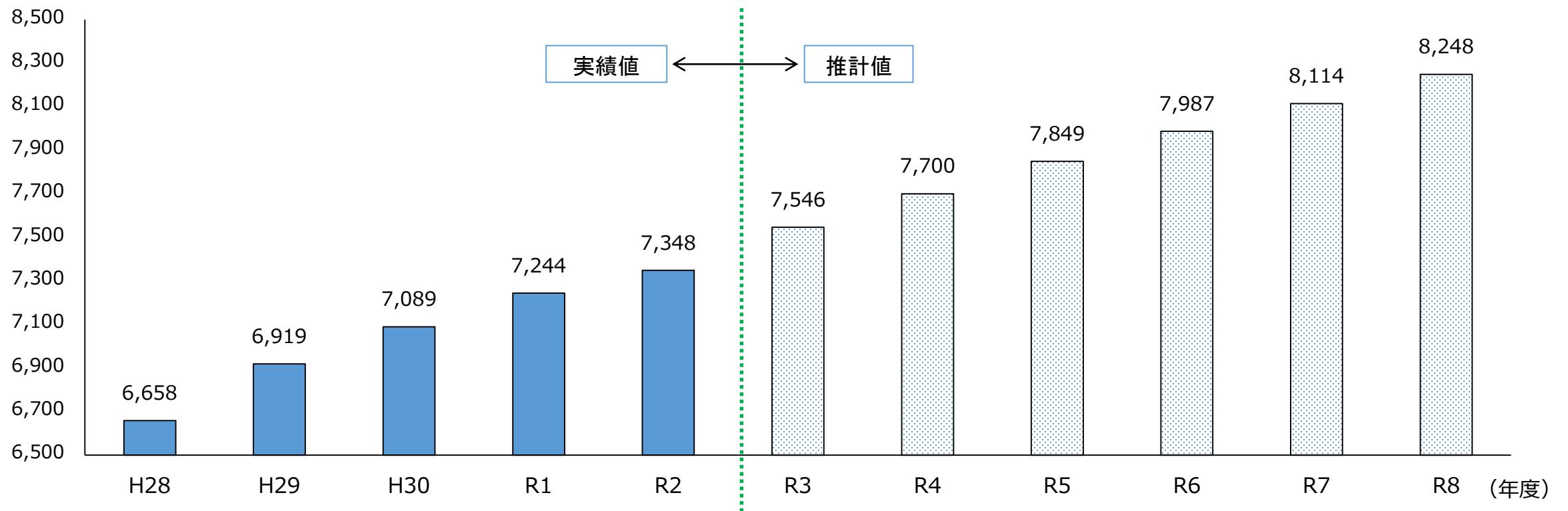


選抜年度	対ピーク時
昭和62年	100%
・	・
平成23年	48.9%
平成24年	50.6%
平成25年	50.8%
平成26年	52.3%
平成27年	51.1%
平成28年	50.6%
平成29年	50.1%
平成30年	48.6%
平成31年	47.3%
令和2年	46.4%
令和3年	44.3%
令和4年	45.4%
令和5年	45.4%
令和6年	45.1%
令和7年	44.2%
令和8年	44.0%
令和9年	43.3%
令和10年	42.6%
令和11年	41.7%
令和12年	41.5%

旧第1学区	大阪市西淀川区・東淀川区・淀川区・北区、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、豊能郡、三島郡
旧第2学区	大阪市西区・港区・此花区・大正区・旭区・福島区・都島区・城東区・鶴見区・中央区（東）、守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市
旧第3学区	大阪市浪速区・西成区・東成区・天王寺区・住吉区・生野区・阿倍野区・東住吉区・平野区・住之江区・中央区（南）、堺市美原区、八尾市、富田林市、河内長野市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、東大阪市、大阪狭山市、南河内郡
旧第4学区	堺市堺区・北区・西区・中区・南区・東区、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、泉北郡、泉南郡

参考 教育を取り巻く状況の変化② 府内支援学校の状況

府立支援学校に在籍する知的障がいのある生徒数（推計含む）の推移（平成28年度推計の再推計）



公立特別支援学校における教室不足調査(令和3年10月1日時点 文部科学省調査)

(1) 不足教室のある学校数（堺市立支援学校3校分含む）

学校数	教室が不足している学校数
49（府立46、堺市立3）	28校（府立28、堺市立0）

(2) 支援学校の不足教室数

不足教室数	令和6年度までに解消が計画されている教室数
528教室	90教室

※不足教室の85.2%（483室）は、知的障がい支援学校

(3) 特別支援学校設置基準のうち「校舎」・「運動場面積」を満たしていない学校数

学校数	基準を満たしていない学校数	
	校舎面積	運動場面積
49（府立46、堺市立3）	12（府立12、堺市立0）	24（府立23、堺市立1）

現時点における今後の学校整備スケジュール

- もと西淀川高校を活用した新校整備（R6年度開校予定）
- 生野支援学校の大阪わかば高校敷地内への移転/拡充（R9年度開校予定）

1. 教育をとりまく社会の変化

社会の変化（2040年以降の社会）

今の子どもたちが社会の中心となる2040年以降は、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代と言われ、予測困難な未来となる可能性大

- ・人口減少や高齢化、DX、グローバル化や多極化、地球環境問題等がこれまで以上に進行
- ・Society5.0（超スマート社会）の到来、労働市場の構造や職業自体が抜本的に変化

望む未来を自身で描き創造することが求められる

未来の社会が求める力

- ➡ 常に学び・成長し、社会を形成する力
- ➡ 互いを尊重し、共生社会を実現する力
- ➡ 変革を起こし、新たな価値を創造する力

2. 現行計画の振り返り ※資料1参照

- 小中学校・高校の教育力
- 障がいのある子どもの自立支援
- 豊かでたくましい人間性
- 健やかな体
- 教員の力とやる気
- 学校の組織力向上と開かれた学校づくり
地域の教育コミュニティづくりと家庭教育の支援
- 安全で安心な学びの場
- 私立学校の振興

3. 次期計画の柱建て（イメージ）

（大阪の教育がはぐくむ人物像）

- 人生を自ら切り拓いていく人
- 認め合い、尊重し、協働していく人
- 地域や世界とつながり、社会に貢献していく人

（大阪がめざす教育）

- 子どもの多様性に応じ、誰一人取り残さない教育
- 一人ひとりの良さや可能性を引き出し、最大限伸ばす教育

	教育を深める				教育を支える			
	確かな学力の定着と学びの深化	豊かな心と人間性の育成	生涯にわたる健やかな体づくり	将来をみすえた自主性・自立性の育成	社会に開かれた教育をより進める多様な主体との協働	力と熱意を備えた教員の育成	学びを支える施設等の環境整備	私立学校の振興
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力や探究する力を身に付ける。 ○国際社会で活躍する人材の育成や学び直しの提供など、子どもの多様なニーズに応じた学びを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○命の大切さや他者への思いやり、人権、多様性を認め合う心を学ぶことにより、子どもの豊かな心をはぐくむ。 ○福祉等と連携し、支援体制を充実、いじめや虐待、ヤングケアラー等の早期発見・解決等につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全般により体力向上を図るとともに、子どもが規則正しい生活習慣等を身に付けることで健やかな体づくりにつなげる。 ○子どもにとって、望ましい運動・スポーツ環境の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分らしい生き方や社会での役割、それらの価値を見出す様々な機会の拡充を図る。 ○幼児教育の質の向上を図り、発達段階に応じた取組みを促進。 ○子どもが自身の個性・特性を把握し、社会の担い手となるため、小中高一貫したキャリア教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様化する生徒・保護者のニーズ・課題に対応するため、地域や企業等との連携を図る。 ○多様な主体との連携により、子どもの興味・関心や学習意欲を向上させる体験機会を拡充する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○優秀な教員の確保を図るとともに、育成環境の充実により、教員の資質・能力の向上を図る。 ○教員の業務改善、外部人材の活用等により、働き方改革の一層の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害や感染症に備えた学校安全の確保、中長期にわたる整備により、子どもが安心して学べる施設環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○私立学校園が、それぞれの建学の精神に基づき、公私連携、切磋琢磨しながら、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を実施できるよう、振興を図る。

<府立高校>

- ・府立学校のネットワーク化等により、教育基盤の底上げ、各校の特色づくり、魅力化を図る。

<府立支援学校>

- ・新たな特別支援学校設置基準を踏まえ、支援の必要な幼児・児童・生徒の教育環境の体制整備を進める。

（参考）現行の教育振興基本計画における基本方針

- <基本方針1> 小中学校の教育力を充実する
- <基本方針2> 高校の教育力を向上する
- <基本方針3> 障がいのある子どもの自立を支援する
- <基本方針4> 子どもたちの人間性をはぐくむ
- <基本方針5> 子どもたちの健やかな体をはぐくむ
- <基本方針6> 教員の力とやる気を高める
- <基本方針7> 学校の組織力向上と開かれた学校づくり
- <基本方針8> 安全で安心な学びの場をつくる
- <基本方針9> 地域の教育コミュニティづくりと家庭教育を支援
- <基本方針10> 私立学校の振興